

# 学びの改革実践校 取組紹介

学びの改革支援課

## 学びの改革実践校の取組

### ■ 中野市立高社小学校の取組

～メディアリテラシー委員会を中心とした ICT 活用を推進するための取組～

高社小学校では、1人1台端末の整備を機に、ICTを活用した授業づくりをさらに進めるため、令和3年度から校内にメディアリテラシー委員会を組織した。

委員会は、学年間や校務分掌の連携を図って組織的に取り組めるよう、各学年の教員1名と、情報教育係、研究主任で構成した。ICT 端末導入初期には、委員会で活用に向けたロードマップを作成し、スケジュールと目標を職員間で共有した。また委員会では、児童の端末の使用状況の情報交換や、児童、保護者、教員それぞれに ICT の活用についてのアンケートを実施するなどして、継続的によりよい ICT 利用の方向を探っている。加えて、家庭向けのお便りを発行し、児童が授業で ICT 端末を使っている様子や、家庭での使い方について伝えたりするなど、学校と家庭の協力体制が一層進むようにしている。

これらの委員会を中心とした学校全体の取組により、職員間で、教育クラウドを活用した学びの良さが共有されてきたことや、保護者の理解が進んできたことなどにより、例えば、家庭学習で ICT 端末を利用する機会が増えたり、低学年の児童でも、ワークシートを写真に撮り、クラウドで共有して見合う授業が行われたりするなど、教科や学年に関わらず、日常的に ICT を活用した学びが行われるようになってきている。



授業での活用の様子

### ■ 箕輪町立箕輪中学校の取組

～不登校生徒の個別最適な学びを支える学習環境の開発～

箕輪中学校では、増加している不登校生徒に対応するため、令和3年度に、生徒の居場所を広げ、「個別最適な学び」を支える環境づくりを目指し、教室の他に安心して過ごせる場所として校内に「F組」を開設した。

・ICT 環境の活用 1人1台端末を活用し、F組に登校できている生徒や自宅にいる生徒が、オンラインで各教科の授業に参加できる環境を整えている。また、「eライブラリ」(小・中学校全学年の教材が収録されているオンライン学習支援サービス)を利用し、自分の学びたい教科の内容を、F組や自宅で自分のペースで進められるようにしている。

・相談体制の工夫 F組の担当教員は、自宅にいる生徒や登校していても対面では話がづらい生徒と、ビデオ会議アプリ(Meet)を利用して相談を行っている。画面越しではあるが、互いの顔を見て話をしながら、相談支援を行っている。また、養護教諭や適応指導係の職員もオンラインで相談支援を行い、生徒の様子の変化などを適切に把握し、機を逃さない支援につなげている。

・取組による生徒の変化 昨年度、F組に来室していたある生徒は、教職員の関わりから、リモートでの授業参加を契機に友達との関わりが生まれ、参加できる授業を少しずつ増やして3学期以降はほぼ欠席なく登校して、第一志望の高校に進学することができた。本年度も、F組を窓口として、自らのペースで学習を進めることができるようになってきた生徒や、友と関わりをもてるようになってきた生徒が増えてきている。

